

## 令和2（2020）年度 資源評価調査報告書

種名	イラコアナゴ	対象水域	太平洋北部（青森～千葉）
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、青森県産業技術センター水産総合研究所、岩手県水産技術センター、宮城県水産技術総合センター、福島県水産資源研究所、福島県水産海洋研究センター	協力機関名	

### 1. 調査の概要

佐井村以東の青森県から福島県にいたる各県が過去に遡ってまとめた主要港の月別漁業種別水揚げ量をもとに、本種の主要な漁業種別を抽出するとともに、海域別や月別の漁獲量を求め、主産地や主漁期を調べた。また、沖合底びき網漁獲成績報告書（以下、沖底漁績）からCPUEを計算し、その変動から現在の資源の水準および動向を判断した。

### 2. 漁業の概要

本種の漁獲量について岩手県、宮城県、福島県は2000年以降、青森県は2007年以降の情報を集計した。全漁業種による本種の漁獲量は2003年以前には700～800トン前後で推移していたが、2004年以降は急激に増加し、2007年には過去最高の4,120トン記録した。しかしその後は減少し、2013年以降は1,000トン前後で推移している。2019年には漁獲量に減少がみられ、過去最低の592トンであった（図1）。

漁業種別では主に沖合底びき網（以下、沖底）で漁獲され、2000年以降は年間漁獲量の90%以上が沖底で漁獲されている（図1）。特に漁獲量が増加した2004年以降は年間漁獲量の97%以上が沖底で漁獲されており、2019年は99.7%が沖底による漁獲であった。

県別では宮城県による漁獲が大半を占めており、2000～2018年には宮城県の漁獲量が全体の90%以上を占めていた（図2）。2019年には宮城県の漁獲は減少して全体の84.8%、次いで青森県の漁獲が10.2%、岩手県の漁獲が4.9%であった。

月別では近年（2016～2018年）は2～6月に漁獲が集中する傾向があったが、2019年には4月以外の漁獲量は100トンを下回り、4月の漁獲が年間漁獲量の50%以上を占めていた（図3）。

1997年以降の沖底漁績に「ホラアナゴ」として記載されている漁獲情報は大半が本種のものであると考えられる（渡邊 2014）。沖底漁績の海域別漁獲量では、2010年以前は常磐海区での漁獲が年間漁獲量の50%以上を占めていた。しかし、2011年の福島第一原子力発電所事故以降は宮城県の沖底船が常磐海区での操業を自粛しているため、常磐海区での漁獲は極端に減少して金華山海区での漁獲が大半を占める状態が続いている（図4）。

### 3. 生物学的特性

(1) 分布・回遊：東太平洋を除く全世界大陸斜面域の水深 236～3,200 m に生息するが、

- 東北海域では水深 500～700 m に多く分布する（萩原ほか 2008、波戸岡 2013、田代 2018）。
- (2) 年齢・成長：東北地方太平洋岸では肛門前長は 1 歳で約 7 cm であり、その後 3 歳までは毎年 3 cm 程度、4 歳以降は毎年 1 cm 程度成長する。雄の方が成長は速いものの雌がより大型化し、最大個体は雄で 20 cm、雌で 24 cm の個体が観察されている。岩崎ほか 2003）。
  - (3) 成熟・産卵：雄は 4 歳、雌は 5 歳から成熟するが、東北地方太平洋岸では産卵間近の個体は観察されておらず、詳細は不明である（岩崎ほか 2003、萩原ほか 2008）。
  - (4) 被捕食関係：ハダカイワシ類やイトヒキダラを捕食し、幼魚はイバラヒゲに捕食される（山内ほか 2008）。

#### 4. 資源状態

本種の漁獲の大半を占める沖底の漁獲情報から資源状態を判断した。沖底漁績から本種の漁獲量が増加する 2004 年以降の本種の有漁操業データを抽出し、年別に CPUE（＝年間の総漁獲量／総有漁網数）を計算して資源量指標値とした（図 5）。CPUE は 2011 年に急激に増加し、翌年の 2012 年には 403 kg/網で過去最高値を記録した。しかしその後は減少し、2019 年は 2011 年以降で最低水準の 169 kg/網であった。水準判断には CPUE の平均値を使い、CPUE が平均値よりも 30% 以上多い場合を高位、30% 以上少ない場合を低位とした。その結果、高中位の境界は 271 kg/網、中低位の境界は 146 kg/網となり、2019 年は平均の 81% であることから中位と判断した。また、最近 5 年間（2015～2019 年）では増加した年もあるものの、全体としては減少していることから、動向は減少と判断した。

#### 5. 資源回復などに関するコメント

本種の資源回復のための取り組みは行われていない。分布範囲が広く、生物特性や資源構造に不明な点が多いことから、さらなる情報収集が必要である。

#### 引用文献

- 萩原聖士・伊藤正木・服部 努・成松庸二・佐藤美智雄・及川貴明・塚本勝巳（2008）東北太平洋におけるイラコアナゴの分布と繁殖．東北底魚研究, **28**, 48-58.
- 波戸岡清峰（2013）ホラアナゴ科．pp. 262-265. In: 中坊徹次（編）．日本産魚類検索全種の同定 第三版．東海大学出版会，秦野．xlix+2428 pp.
- 岩崎高資・片山知史・大森迪夫・北川大二（2003）東北海域におけるイラコアナゴ (*Synphobranchus kaupii Johnson*) の生活史．東北底魚研究, **23**, 25-28.
- 田城文人（2018）ホラアナゴ科．pp. 72-73. In: 中坊徹次（編），小学館の図鑑 Z 日本魚類館．小学館，東京．xvi+524 pp.
- 渡邊一仁（2014）宮城県で漁獲されるアナゴ類について．宮城県水産研究報告, **14**, 35-40.
- 山内務巨・濱津友紀・大村敏昭・高津哲也・高橋豊美（2008）北海道東部沖太平洋大陸斜面における底魚類の分布パターンと優占種の食性．北海道大学水産科学研究彙報,

58, 11-19.

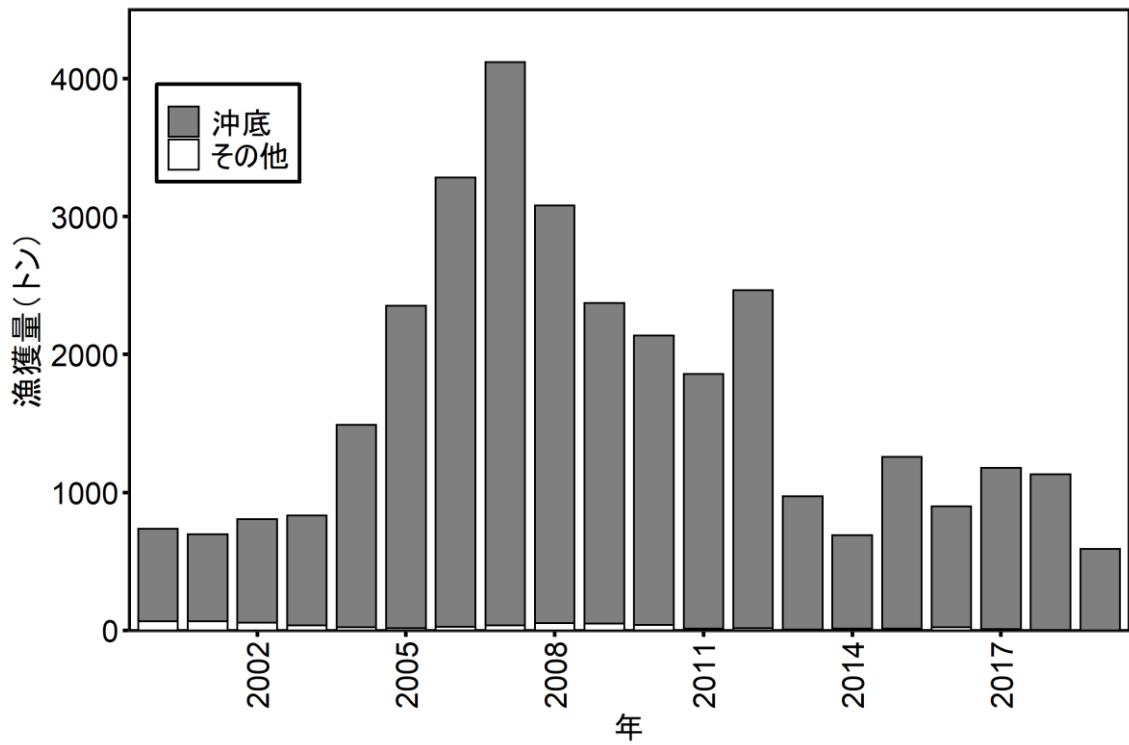


図1. イラコアナゴの漁業種類別漁獲量 集計に用いた漁獲量は県によって異なる。  
 (青森県：2007～2019年、岩手県、宮城県、福島県：2000～2019年)

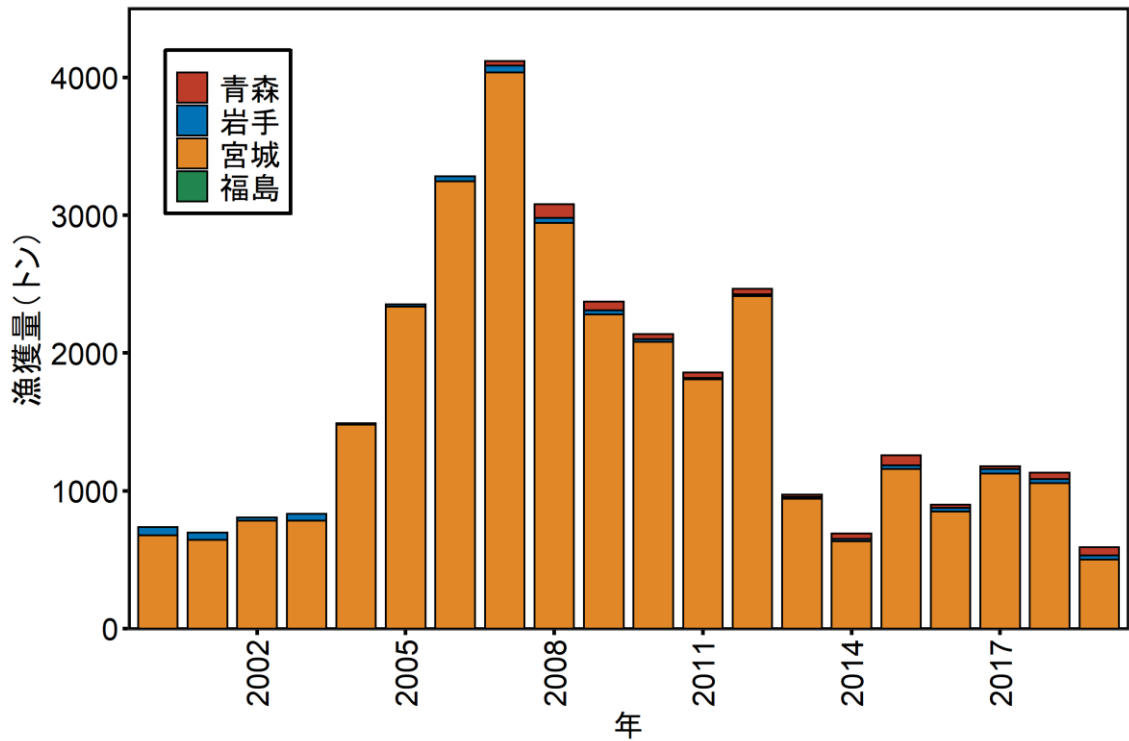


図2. イラコアナゴの県別漁獲量 集計に用いた漁獲量は県によって異なる。  
 (青森県：2007～2019年、岩手県、宮城県、福島県：2000～2019年)

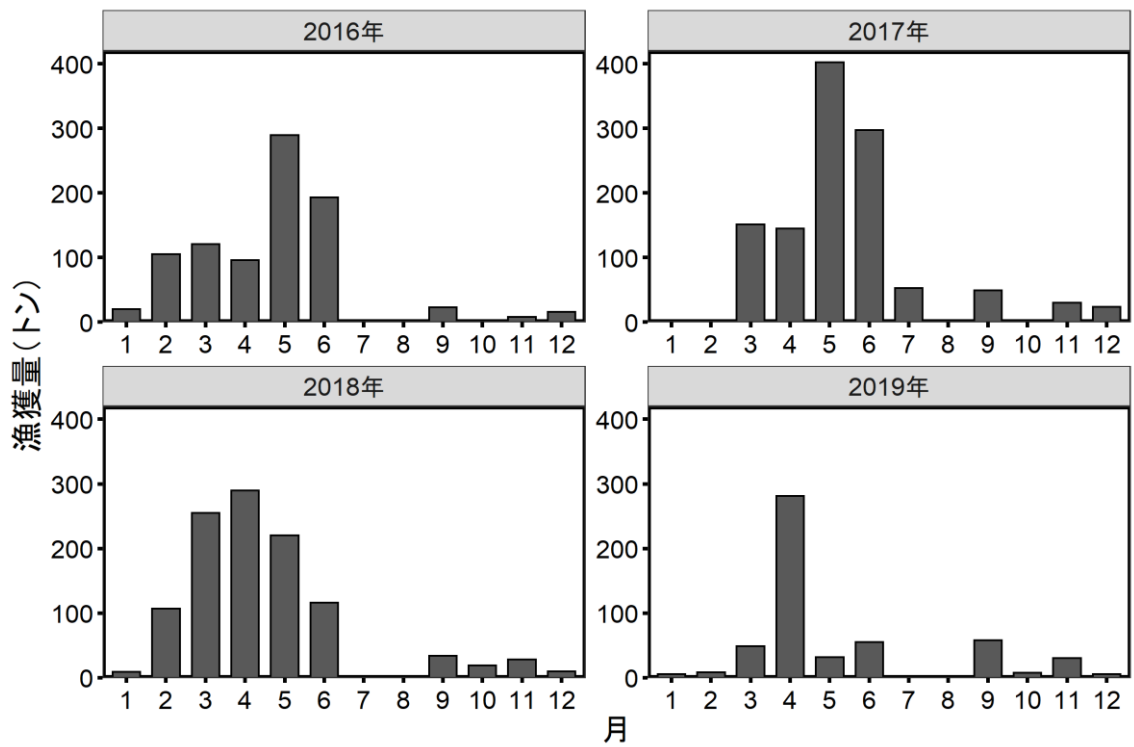


図3. イラコアナゴの月別漁獲量 岩手県および宮城県調べの情報による。

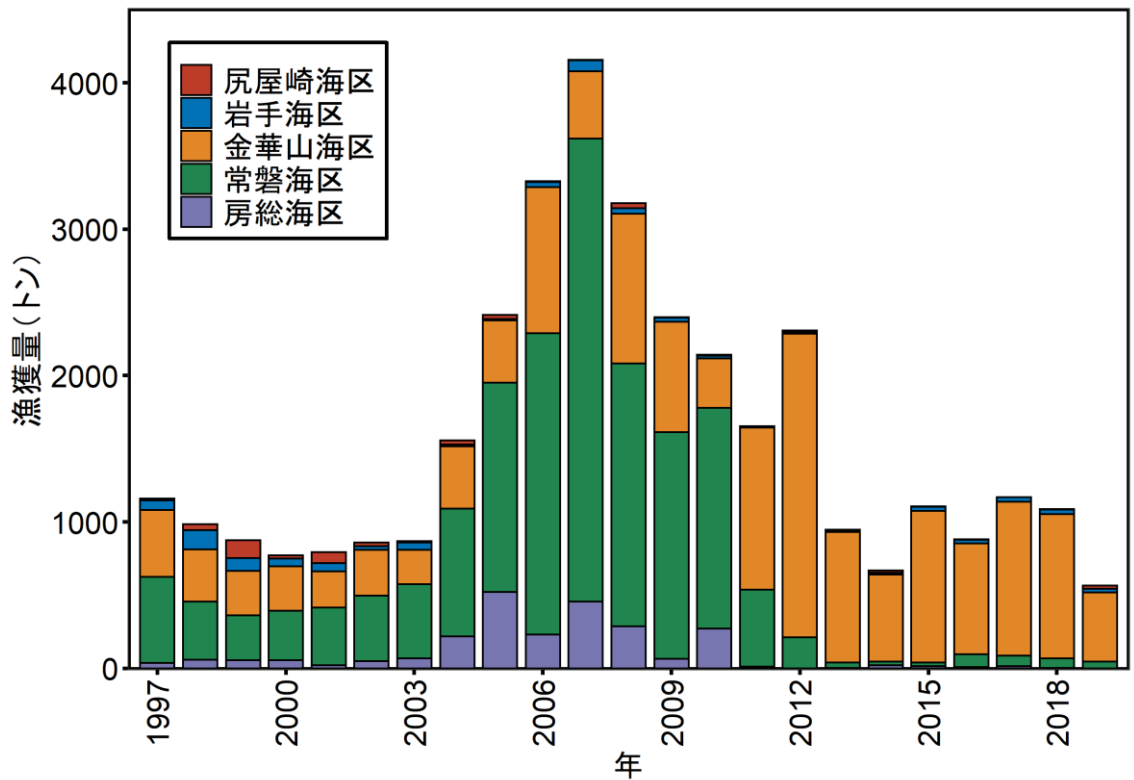


図4. イラコアナゴの沖底の海区別漁獲量 2019年は暫定値。

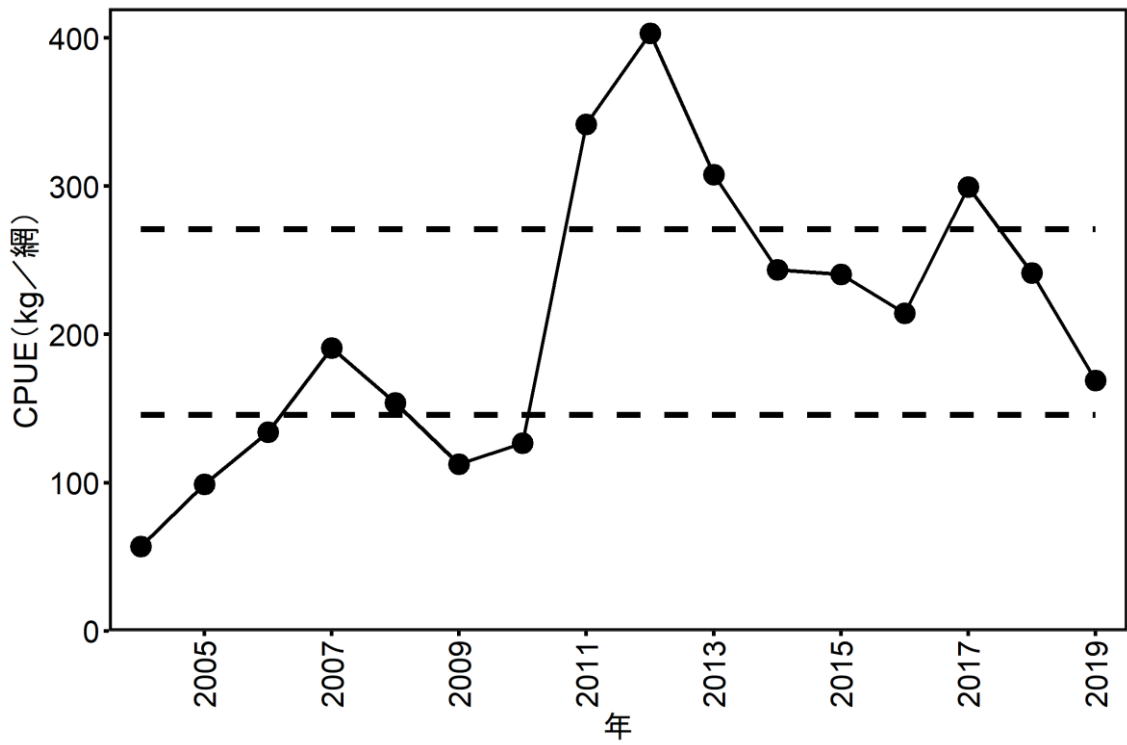


図5. イラコアナゴの沖底 CPUE の推移 破線は高中位および中低位の境界を示す。2019年は暫定値。